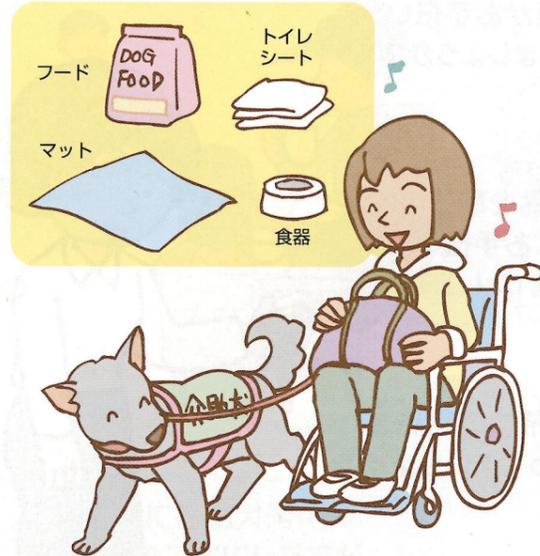




3. ホテル・旅館業

Q1 補助犬使用者の予約を受けるときは？

A1 受け入れ側で用意するものを確認しましょう。



宿泊に必要なものは
使用者が用意しています

受け入れ施設側で用意
するものがあるか事前
に確認しておきましょう。
受け入れ施設側に補助
犬同伴の利用システム
があれば使用者に事前
に伝えておくようにし
ましょう。

宿泊に必要なものは
使用者が用意しています。

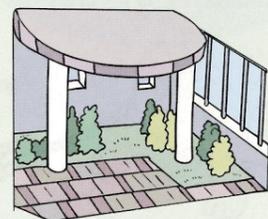
何かこちらで
用意するものは
ございますか？



コラム…年間1000室の利用が示すサービス度

Aホテルは、全社をあげてバリアフリー化に取り組んできました。さりげなく受け入れたいとする同ホテルの姿勢は、特別に部屋を改造するのではなく、通常のデラックスルームを利用者の状態に応じて組み替えてユニバーサルルームとするフレキシブルな対応に表れています。そんな取り組みが利用者の支持を得て、現在では年間1000室を超える利用があるとか。これも利用者の声や従業員の提案を積極的に取り入れて改善してきた成果なのでしょう。

なかでも、利用者の目や耳や手足として活躍する補助犬への取り組みは、利用者と一緒に考えた対応に心がけ、部屋にエサ用ボールやマットを備えるほか、木立に囲まれた一角に補助犬用のトイレ設置を図るなど、利用者の負担を軽減するよう努めています。



Q2 補助犬使用者がチェックインするときは？

A2 施設側の都合をきちんと伝える
ことも大事です。



補助犬を同伴できない
場所（大浴場など）があれば
その理由を伝えましょう

排泄場所を
提案しましょう
（12ページ参照）

館内移動については
従業員の案内があると
望ましいですね

Q3 室内での過ごし方で伝えることは？

A3 和室の場合は特に確認が必要です。

補助犬を畳に上げて
いい場合は、特に
マットの使用について
確認しましょう。

畳に上げていけない
場合は、別途待機場所
を提案しましょう。
例えば、和室の上がりがま
ちの使用など。



使用者は
補助犬のために
室内用のマットなどを
用意しています。